

古本屋の裏の坂を
下りて空き地の隅
からビルの屋上へ
女子が下の階へ

新入りはじめは時間も忘れるほどに頭
は忙しく大変だったが、

最近は仕事に慣れ・・・パパッと書類
整理なども。

一週間前は出張で営業、バスなどを乗り
継いで取引先の会社へ向かった。

・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 。

順調な毎日。ひとまず当面の仕事も落ち着き一段落。

しかしそれと同時に段々と飽和しているような感覚に・・・。

休日の夕方、最近集め始めた漫画本を買いに近くの古本屋まで足を運んだ。

先日の夜、

ベッドのシーツの上でぼんやり窓の外
の空を見ていた。

まばらに雲と星、月が浮かんでいる。

夢を見たが途中でハッと起き上がる。

その後シャワールームへ向かった。

・・・漫画には大して興味もなかった。

だけど先日仕事で頭がいっぱいの毎日
の中、駅近くの売店の雑誌コーナーで立
ち読みをしていたらとあるマンガ本に
興味が湧いてきて・・・・。

古本屋の坂の下・・・・・・使われていな
い空き地の隅に夕方の終わりと同時に
暗いような幻のようなぼやけたものが
出来た。

・・・・興味で集め始めたマンガ本の新刊を買いに行ったその古本屋の裏手辺りの空き地。

そこを通りかかった際に・・・・。

緩い下り坂があり空き地はその向こう。

空はほとんど暗くなっている。

デスクワークや営業。仕事は全て覚え、
一生懸命の日々。

充実と同時にシャワールームの夜。

先日会社の先輩に、

「あのさ・・・・もしよかったら今度一緒に食事でも・・・・」

買ったマンガ本はバッグの中に入っている。

いつの間にか・・・気がつけばビルの屋上にいた。

それほど高いビルではないが何故かハダカ姿。

露わになった太ももと白い下着がかすかに吹く風にほんの少し揺れている。

空はどんよりと覆い尽くすような曇りで
だけで時間はまだ昼間。小粒の雨が屋
上のコンクリート地面と下の街の道路
に落ちている。

．．．．．先輩と行った食事の夜は、

（体験版は以上になります。ご読了あり

がとうございました)